

Round 10 | 11 | 12



● Infomation

circuit 富士スピードウェイ(静岡県小山町)
 date 7/20 **sat** 7/21 **sun**
 weather 晴れ 晴れ
 spectators 49,200人 (sat 18,100人 + sun 31,100人)

Outline

2024年の全日本スーパーフォーミュラ・ライツ選手権のRound10・11・12が7月19日(金)・7月20日(土)・7月21日(日)に富士スピードウェイで行われ、Round10では古谷悠河が3位に入り今季初表彰台を獲得。Round11では小林利徠斗がポール・トゥ・ウィンでシリーズ初優勝を果たし、中村仁も2位に入った。最終日のRound12では7番グリッドからスタートした野中誠太が、ライバルを次々と追い抜いて3位表彰台を獲得するなど、各レースでそれぞれのドライバーが活躍する大会となった。

Result

35

Driver

中村 仁 JIN NAKAMURA

モビリティ中京 TOM'S 320 TGR-DC



	Rd.10	Rd.11	Rd.12	Driver Rank
予選	1位	3位	5位	▶ 3位
決勝	5位	2位	7位	

	Rd.10	Rd.11	Rd.12
予選タイム	P1/1'33.030	P3/1'33.172	グリッドは第10戦の決勝レース結果
ベストタイム	P5/1'34.494	P2/1'35.096	P7/1'34.515



36

Driver

野中 誠太 SEITA NONAKA

PONOS Racing TOM'S 320 TGR-DC



	Rd.10	Rd.11	Rd.12	Driver Rank
予選	6位	2位	7位	▶ 2位
決勝	7位	4位	3位	

	Rd.10	Rd.11	Rd.12
予選タイム	P6/1'33.416	P2/1'33.092	グリッドは第10戦の決勝レース結果
ベストタイム	P7/1'34.426	P4/1'35.188	P3/1'34.764



37

Driver

古谷 悠河 YUGA FURUTANI

Deloitte HTP TOM'S 320



	Rd.10	Rd.11	Rd.12	Driver Rank
予選	5位	7位	3位	▶ 6位
決勝	3位	7位	4位	

	Rd.10	Rd.11	Rd.12
予選タイム	P5/1'33.406	P7/1'33.496	グリッドは第10戦の決勝レース結果
ベストタイム	P3/1'34.339	P7/1'35.541	P4/1'34.658

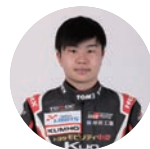


38

Driver

小林 利徠斗 RIKUTO KOBAYASHI

モビリティ中京 TOM'S 320 TGR-DC



	Rd.10	Rd.11	Rd.12	Driver Rank
予選	2位	1位	6位	▶ 5位
決勝	6位	1位	5位	

	Rd.10	Rd.11	Rd.12
予選タイム	P2/1'33.203	P1/1'33.055	グリッドは第10戦の決勝レース結果
ベストタイム	P6/1'34.716	P1/1'34.763 Fastest Lap	P5/1'34.506



予選



Qualifying detail

予選1回目で中村が
初ポールポジションを獲得。
2回目では小林がトップを奪う。

今大会は木曜日から練習走行が始まり、金曜日の午後に予選が行われるスケジュールとなった。TOM'Sの4台は初日から精力的に周回を重ね、週末に向けた準備を進めた。なかでも小林が初日から好タイムを記録し、予選前の最終セッションでは中村がトップ、2番手に小林がつけた。

15時50分から始まった予選1回目では、中村が1分33秒030を記録し初ポールポジションを獲得。小林が0.173秒差で2番手に続いた。野中はアタック中のミスが響き6番手。古谷は5番手でセッションを終えた。

続く予選2回目では、小林が1分33秒055でポールポジションを獲得。野中は1回目であまく行かなかった部分を挽回し2番グリッドを確保した。中村は連続でポールポジションとはならなかったものの3番グリッドを手にし、TOM'Sチームがトップ3を独占した。古谷も懸命にタイム更新を狙ったが、トップから0.4秒差の7番手となった。

After Qualifying



初めてポールを獲れて
自信になりました。

ドライバー 中村 仁

35

練習走行から予選に向けて考えたセッティングがうまく機能してくれました。自分としてもアタックをまとめることができ、結果がちゃんとしてきたと思います。予選2回目もポールポジションを獲れるパフォーマンスがあったと思うので、そこは悔しいです。



2回目の結果を見ると、
一発の速さは良くなってきた。

ドライバー 野中 誠太

36

今まで以上に自信を持って挑んだ予選でしたが、1回目で大きなミスがあって、満足なアタックができませんでした。2回目に関してはセッティングもアジャストしたことが良かったですし、ドライビング的にも大きなミスはありませんでした。



予選で結果を残せませんでした、
ペースは決して悪くありません。

ドライバー 古谷 悠河

37

練習走行の段階では比較的良さそうな印象でしたが、予選になったら上位に食い込めませんでした。1回目は前を走る選手がコースオフしていて、その影響がありました。2回目はアンダーステアが強くてタイムが上がりませんでした。

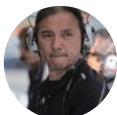


ポールは獲れましたが、
もっと良くしたい気持ちはあります。

ドライバー 小林 利侖斗

38

クルマの調子が良かった分「もっと攻めよう」という気持ちになって1回目ではブレーキをロックさせる場面がありました。それを踏まえて2回目に臨み、ミスなくまとめられましたが、クルマの限界を引き出しきれない感じでした。もっと上を目指していきたいです。



中村の成長スピードが著しいと感じています。

チーム監督 山田 淳

初日の走行から中村と小林が元気よく走っていて、その通りの結果になったと思います。野中は両方の予選ともに失敗が目立つ印象でした。そこは克服してもらいたいです。古谷も良いところはたくさんありますが、大事なところで結果に結びつかないので、負のスパイラルから何とか抜け出してもらいたいです。

Rd.10 ●天候：晴れ ●気温：27℃ ●路面温度：30℃
Rd.11 ●天候：晴れ ●気温：30℃ ●路面温度：44℃
Rd.12 ●天候：晴れ ●気温：30℃ ●路面温度：41℃

決勝



Qualifying detail

古谷がRound10で今季初の3位表彰台。Round11では小林が初優勝を飾る。野中も後方グリッドから追い上げを見せる。

20日(土)8時20分から始まったRound10(15周)は中村、小林がスタートで出遅れて後退。一方、5番手スタートの古谷が3番手に浮上。前のライバルとの差を縮めていく走りを披露。2番手浮上は叶わなかったが、3位に入って今季初表彰台となった。中村は5位、小林は6位でフィニッシュ。野中はポイント圏外の7位でレースを終えた。

その日の夕方に行われたRound11(21周)では、スタートで小林がトップを守った一方で野中が出遅れ、中村が2番手に浮上した。後続でバトルが続くなか、トップの2台はリードを広げていき、小林がシリーズ初優勝を記録。中村が2位に入りワンツーフィニッシュを達成した。野中は追い上げて4位、古谷は7位に終わった。

21日(日)のRound12(15周)では、7番手スタートの野中が前のマシンを次々と追い抜いていき、残り2周で表彰台圏内に浮上。今大会ベストとなる3位を獲得した。一方3番手スタートの古谷はペースに苦しみ4位フィニッシュ。小林は5位でレースを終え、中村は1周目の接触によるスピンが響き7位となった。

After Race



全部勝つつもりでいたので、理想とは違う結果になりました。

ドライバー 中村 仁

35

1レース目は新品タイヤで臨みましたが、スタートでミスをしてしまいもったいないことをしました。すごく悔しかったです。2レース目は改善してスタートを決めることができたので、悪くなかったと思います。



何とかここまで追い上げてられました。

ドライバー 野中 誠太

36

1レース目のスタート時にトラブルがあって後方に沈む形になりました。そこでリズムが崩れて、今週はスタートがうまくいきませんでした。2レース目と3レース目ではしっかりと追い抜くことができました。今大会で予選の速さを掴めたところがあるので、そこをさらに伸ばしていきたいです。



嬉しさも悔しさもあるレースウィークでした。

ドライバー 古谷 悠河

37

今年は苦しいレースが続いていたので、1レース目で表彰台に乗れたことについてはホッとしています。ただ、その後の2レースは苦しい展開になったので、ひとつ結果を出せたことは良かったですけど、トータルで見ると悔しさがあります。

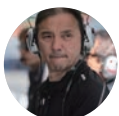


3レースそれぞれでいろんな経験ができました。

ドライバー 小林 利侖斗

38

2レース目はタイヤの状態が周りより良かったので、スタートを決めれば勝つチャンスは多くなるだろうと思っていました。やれることをしっかりやって勝てたのが良かったです。3レース目では情けないミスがあったので、次は同じことをしないようにしたいです。



タイトル争いでは中村と小林もチャンスがあると思っています。

チーム監督 山田 淳

古谷選手は久しぶりの表彰台で流れが来たかと思いましたが、全体的にみると課題が残った印象です。2レース目は小林と中村が頑張ってくれて、これからが楽しみです。野中は3レース目の追い上げは素晴らしかったですが、練習の段階からしっかり速さを見せてほしいですね。

Race Scene



トヨタモビリティ東京

KUO
GROUP

Deloitte.

PONOS



坪井工業



損保ジャパン

東京アーバンコンサルティング

Happiness in Your Life
広島トヨペット
HIROSHIMA TOYOPET TECHNICA

HTP Racing

バンテリン

アールケーエ

LAC

S&D
TAMA GROUP

EDIFICE
CASIO

"ART"

TGR-DC
TGR Driver Challenge Program

GR Toyota
GAZOO
acing

TRD

ThreeBond

PFC
BRAKES

ENKEI